

CHECK 1 自動車運転中の事故を防ぐ

- ①自分の身体能力を過信しない
- ②進入車線は十分に確認する
- ③交通安全講習を受ける



年をとると、誰でも視力や聴力が衰えてきます。機能の低下を自覚し、早めのブレーキなどを心掛けましょう。



複数車線の道路や高速道路で逆走運転をしてしまうケースが増えています。必ず進入車線を確認しましょう。



定期的に交通安全講習会に参加しましょう。運転適性検査等を受けて、運転能力をチェックしておくことも大切です。

CHECK 2 歩行中・自転車運転中の事故を防ぐ

- ①道路の横断は横断歩道を
- ②ライトや反射材を付けましょう
- ③ながら運転はやめましょう



道路を渡る時は少し遠回りであっても、信号機のある場所か、横断歩道を渡るようにしましょう。



夜間は、運転手が歩行者等を見落としがちです。早めのライト点灯や反射材を身につけましょう。



自転車運転中にスマートフォンなどを操作する「ながら運転」は、衝突の危険が非常に高いので絶対にやめましょう。

知っていましたか？ 加齢による運転リスク

身体機能や判断力の低下などにより、運転時の操作ミスが起こりやすくなります。75歳以上の後期高齢者は、ハンドルやブレーキなどの操作ミスによる交通事故の割合が、一般運転者の約2倍になっています。

【こんな症状がでた時は要注意】

- 右左折のウインカーを間違ったり忘れたりする
- 歩行者、障害物等に注意がいかないことがある
- カーブをスムーズに曲がれないことがある
- 車庫入れの時に塀や壁をこすることが増えた
- 駐車場のラインや、枠内に合わせて車を停めることが難しくなった
- 急発進や急ブレーキ、急ハンドルなど運転が荒くなった(と言われるようになった)

交通事故の多くは 自宅近くで起きています

高齢者の交通事故の25%は、自宅から半径100メートル以内の場所で起きているというデータがあります。

「慣れている道だから」と安心せずに、常に周囲の状況を気に掛けるようにしましょう！



交通安全指導員の高橋さん、知久さん

みんなで考えてみよう

多くの高齢者が交通事故の 加害者や被害者になっていることを

市内では、平成30年中に369件の人身交通事故が発生し、12人の尊い命が奪われています。その中でも、交通事故死者数の実に半数を占めるのが高齢者であることを知っていますか。

この機会に自分の運転を見つめ直し、交通死亡事故で悲しむ人を1人でも減らせるように考えてみましょう。

【平成30年中】
古河警察署管内
の交通事故死者数は
県内ワースト1位です。

普段から安全運転を
心掛けましょう。

加害者にも被害者にもなるリスク

「私は事故を起こさないから大丈夫」「しっかり歩いているから事故には遭わない」と思っているから事故には遭わないか。

市内では、平成30年に発生した交通死亡事故(全12件)のうち2件に1件は高齢者が関わっています。また、被害者だけを見ても2人に1人が高齢者であることが分かっています。

ひとたび事故を起こしてしまうと、本人だけでなく家族や被害者の人生に重大な影響を及ぼしてしまいます。どのような状況で事故が起きやすいのかをあらかじめ知っておき、交通事故を未然に防ぎましょう。

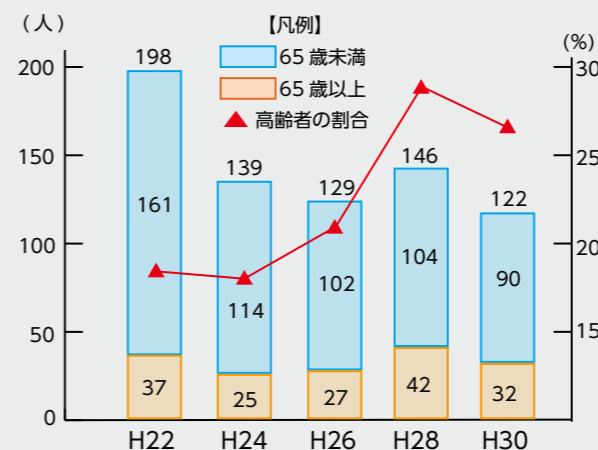
毎年増えている高齢者事故

交通事故が原因で命が奪われるという痛ましいニュースが連日報道されています。「アクセルとブレーキを踏み間違えた」「ハンドルの操作ミス」など、自分は大丈夫だと思っ

ていても、注意力の低下などによって大事故を巻き起こしてしまうことがあります。

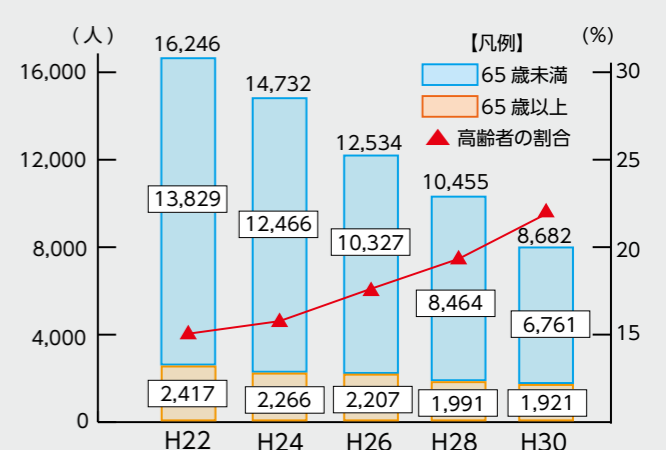
図1や図2が示す通り、交通事故の発生件数は年々減少傾向にありますが、高齢者が交通事故の加害者や被害者になる割合は増加傾向にあります。

(図2) 死亡事故件数にかかる高齢者の割合



出典：交通関係各指標推移表平成20年～平成30年(茨城県警察)

(図1) 交通事故発生件数にかかる高齢者の割合



出典：交通関係各指標推移表平成20年～平成30年(茨城県警察)